



王国産



天
下
無
敵

モモトヤマト



カホー



広びろ
独り占め〜

ふい〜っ
早朝の風呂は
最高でござる



やあ

ここにおナミや
おロビが居れば
言うこと無し
なんじゃが…



失礼
ボクもいいかい？

もちろん
もちろん
ひとりでは
しゃいで
スマンで
ござる〜



あは

あは









これで届くかな



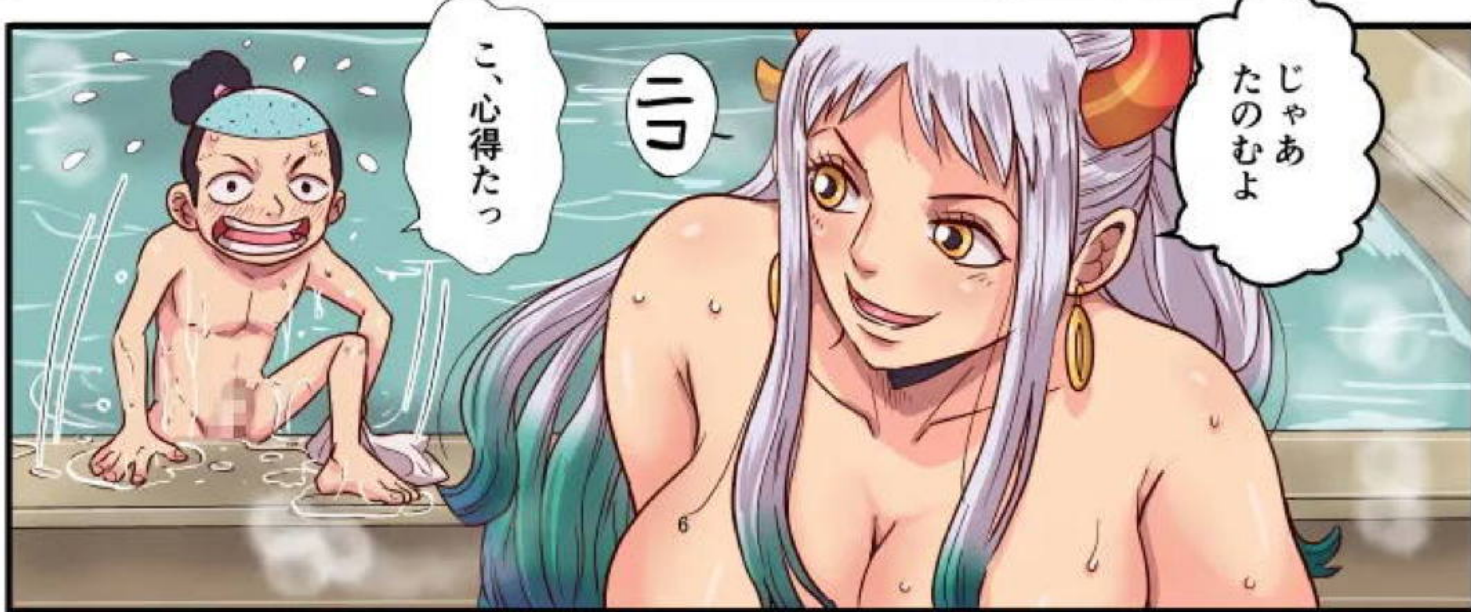
ズン



ああ
そうか

ぺた

ぺた



こ、心得たっ

ニク

じゃあ
たのむよ



大迫力:



うへへ:
後ろからなら
勃ってるのも
バレないでござる

エヘ

エヘ

あーん



隅から隅まで
念入りに
いたすから



ごめんよ
広くて大変かも

拙者に
任せるでござる

ググ

ググ



こんな日が
来るなんて
思っても
みなかったよ

うれしいなあ
まさか光月おでんの
息子に背中を流して
もらえるなんて...



あ、ごめんよ
もう少し強く
お願いしても
いいかい？



あーいいね
その調子







ご無礼



ヤマトどのは
立派な身体だから
届かないなあ



あははっ
くすぐりたいよ





…いいよ
ボクので良ければ
好きなのだ…

まっ



おぬしの
やろしを
感謝でいやる

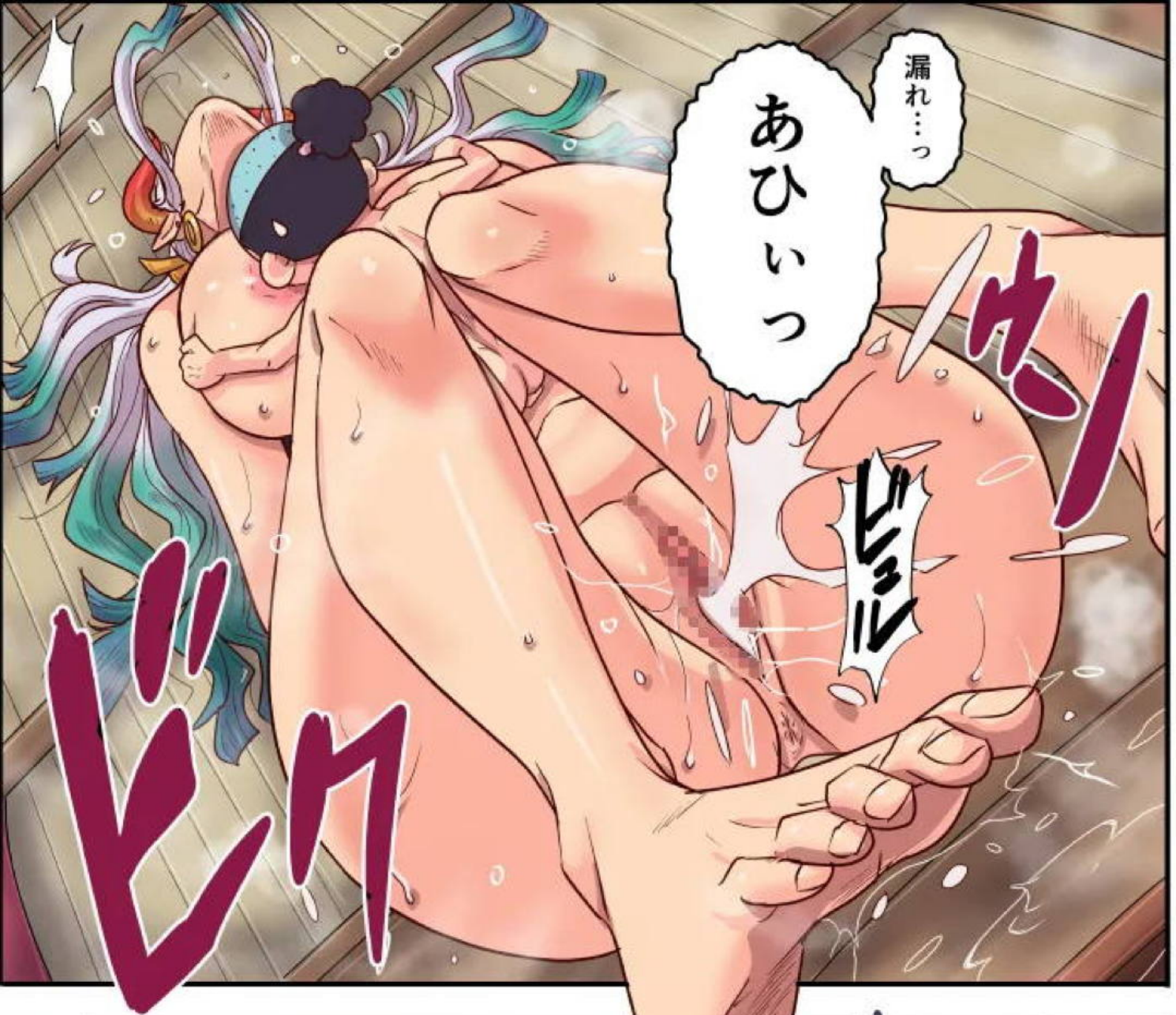
ニク

まっ

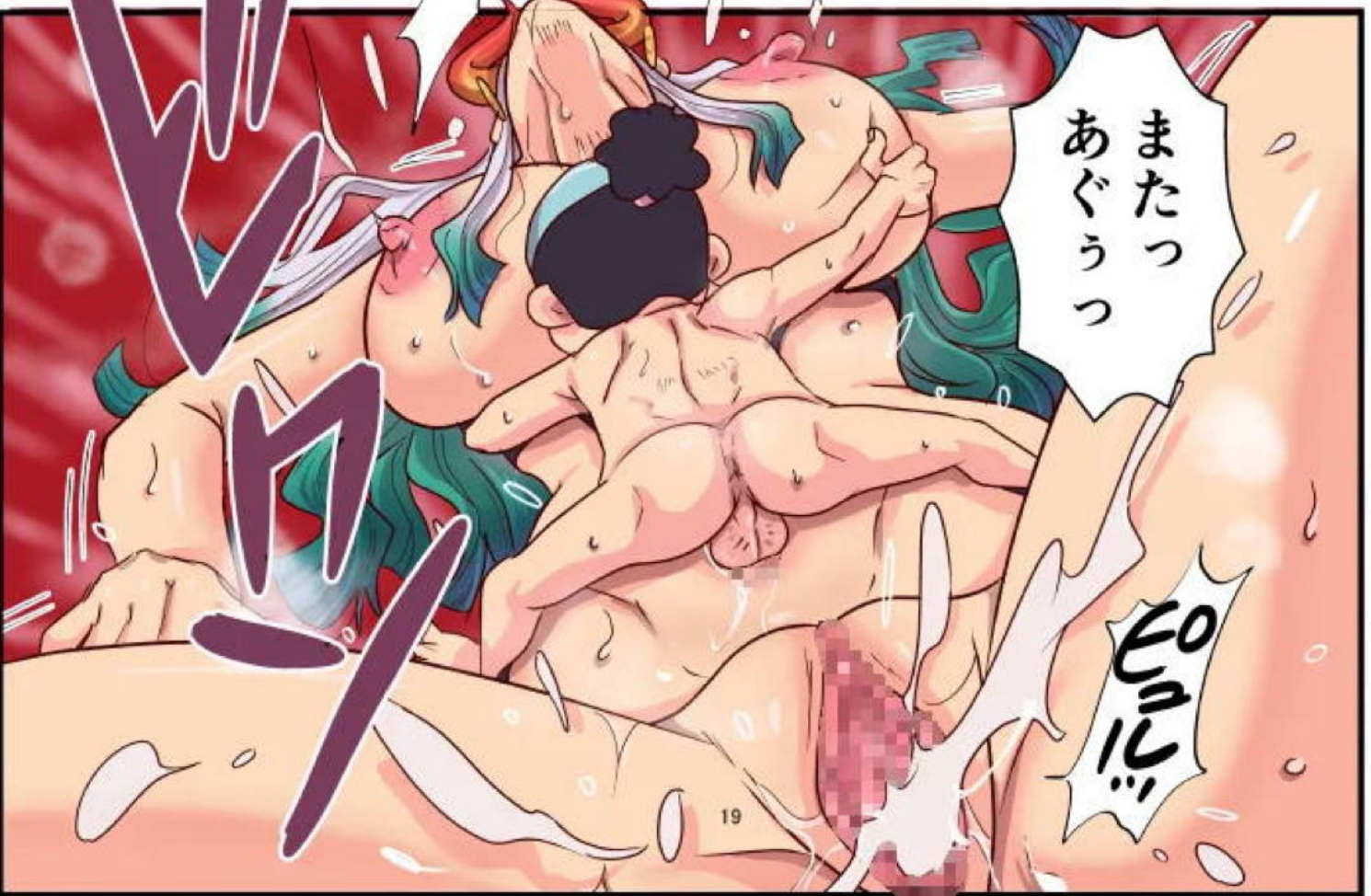


でまかせで
あったがこれは
千載一遇の
好機なので











ヤマトの身体
大きくて柔らかくて
たまらないで
ござるう…

はー

はー

はー

ピュッ
ピュル
ピュッ



しかも
お腹にぶち撒いて…
どうしよう

ピクン

ピクン



ああまた
白のおしっこが
漏れてしまうた

はあ

はあ

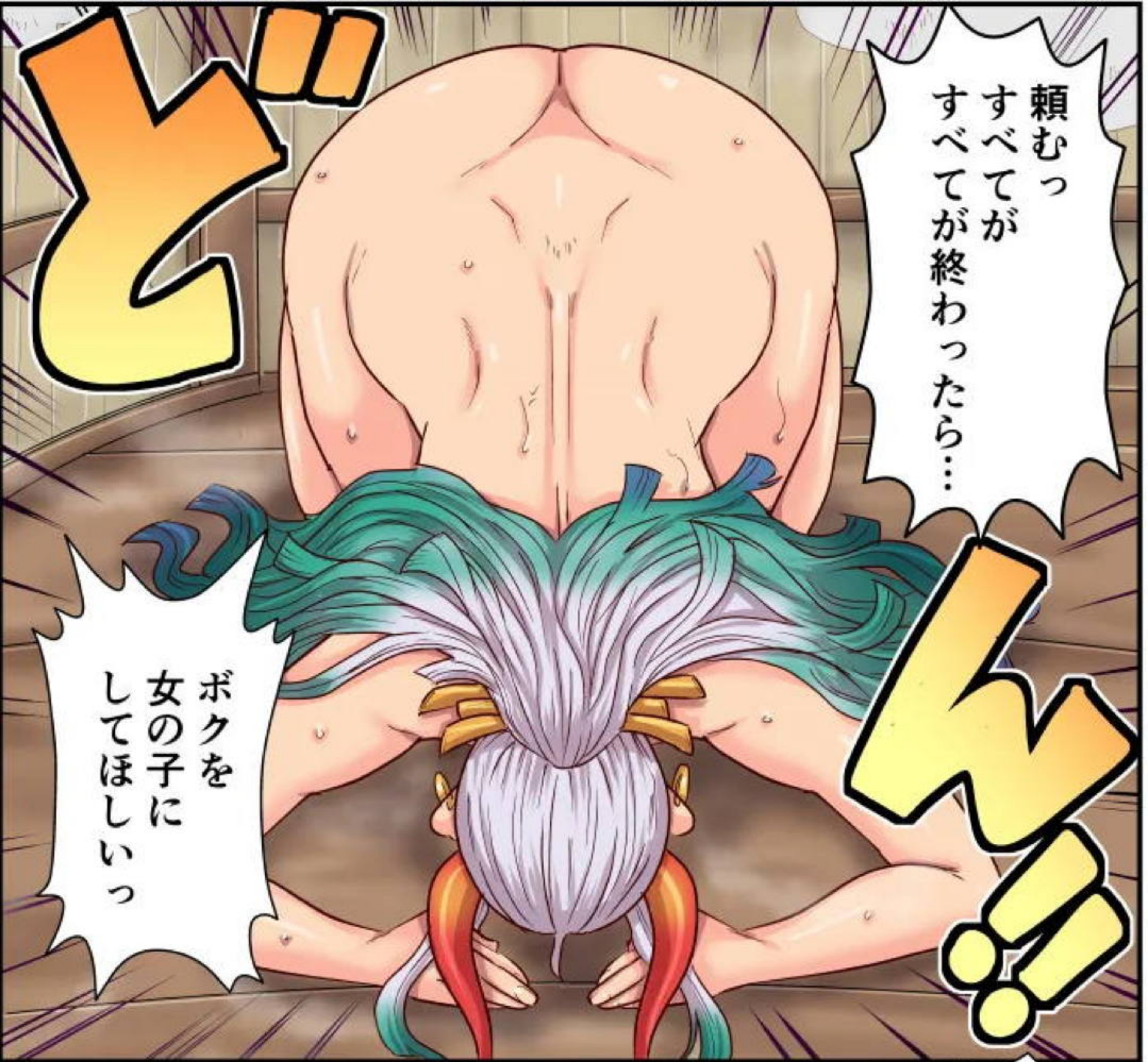
はあ

はあ



モモの助くん

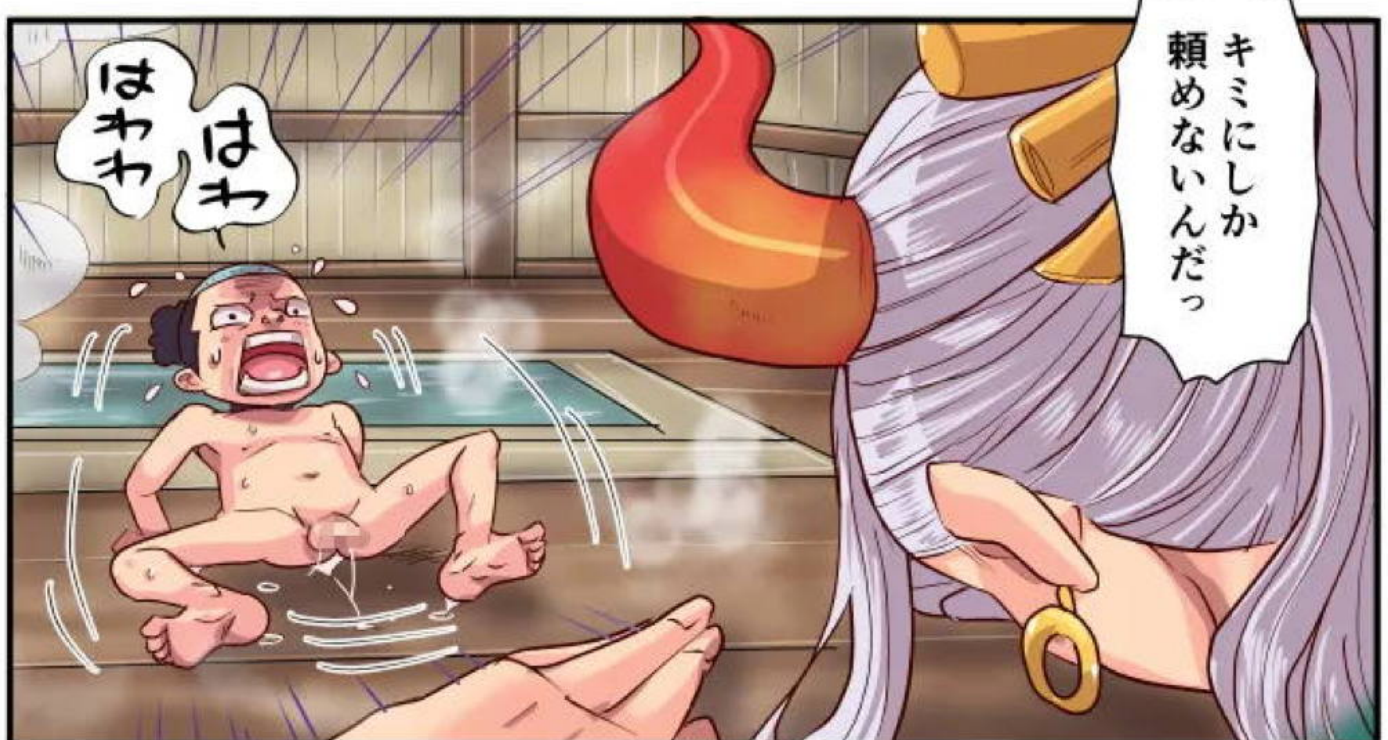
あう…
すまぬっ
わざとじゃ
ないでござるう



頼むっ
すべてが
すべてが終わったら...

ボクを
女の子に
してほしいっ

どん



はわ はわ

キミにしか
頼めないんだっ



ボクは
光月おでんの
志を受け継ぎ
生きると決めた

親父カイドウ達に
荒らされたこの国を
元の素晴らしい
国に変えるためにっ



…でも

でも光月の
おでんの息子の
キミにだけは



生まれたまま
本当のボクを
見てほしいんだ

わがままは
わかってるけど
どうか…



そのためなら
どんな苦労だって
かまわない

男として
それを全う
してみせるっ

この国の
人たちのために

せ…拙者だって

皆の期待に
応えるために
光月モモの助を
演じなければ
ならぬ

でもそれでは
父上に顔向け
できぬ…

本当の拙者は
弱虫で泣き虫だ

ヤマトの気持ちは
よくわかるし
せ、拙者で良ければ
力になりたい
と思う…

ありがとう
すごく
うれしいよっ

おはよう
おはよう

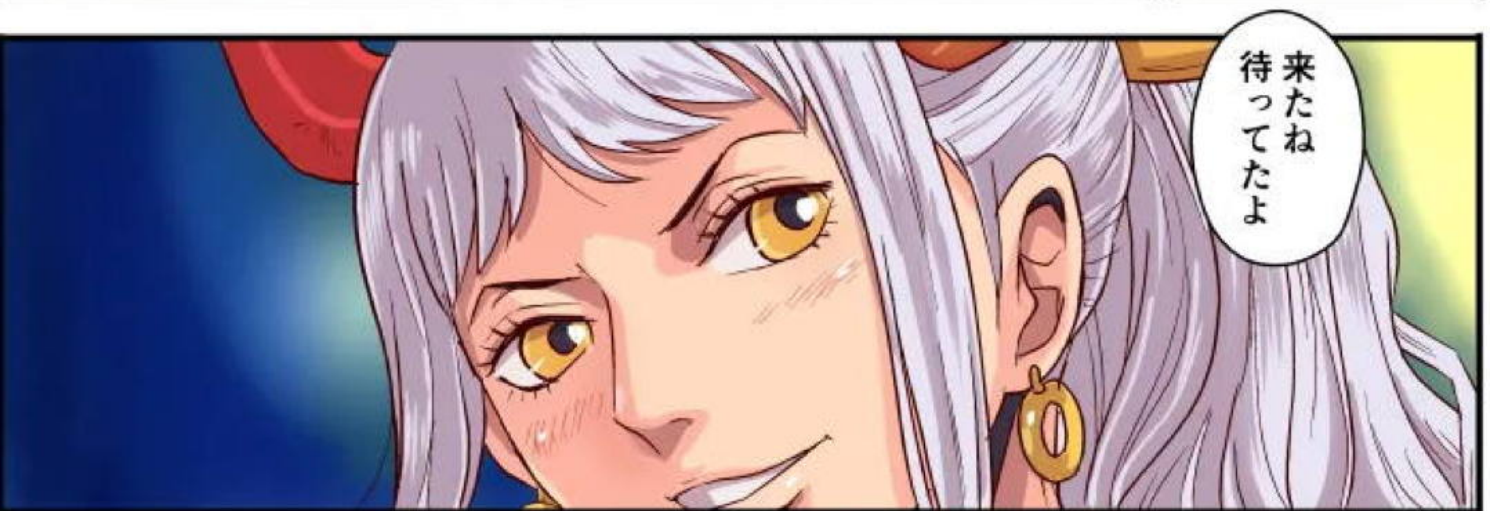
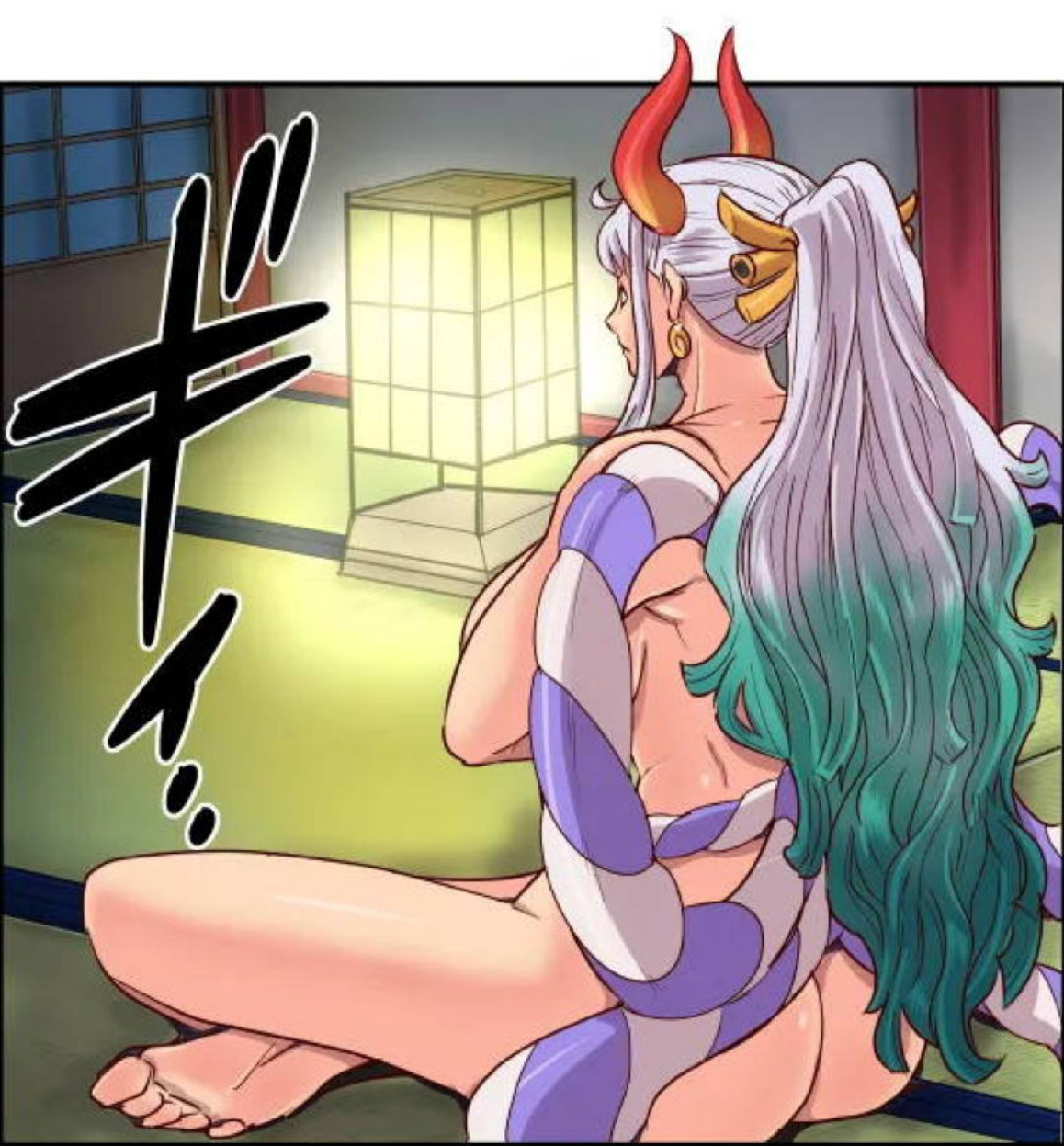
その後二人は
残党狩りや
未知の敵達を
退け



わあああ ああああ...

世の平定に
成功したので
ある







す、すまん
で
い、い...



ふふふ
そんなに
緊張しないでよ



ゴキリ



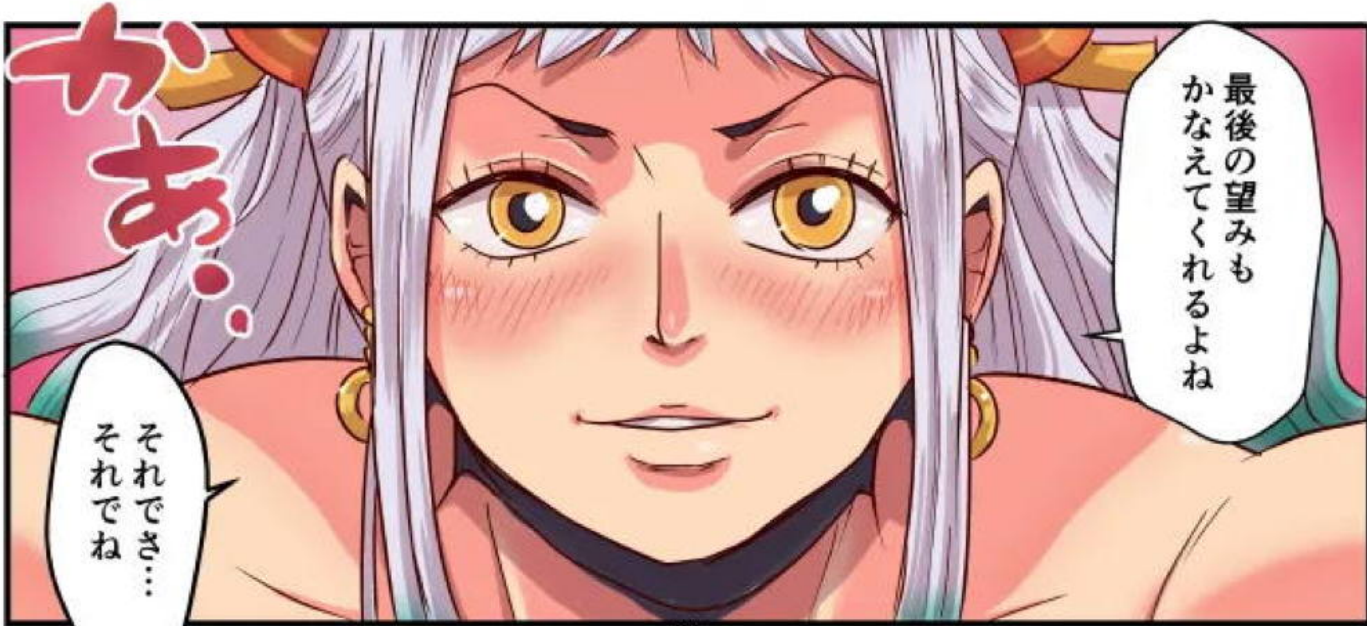
モモの助くん

とうとう
やり遂げたね



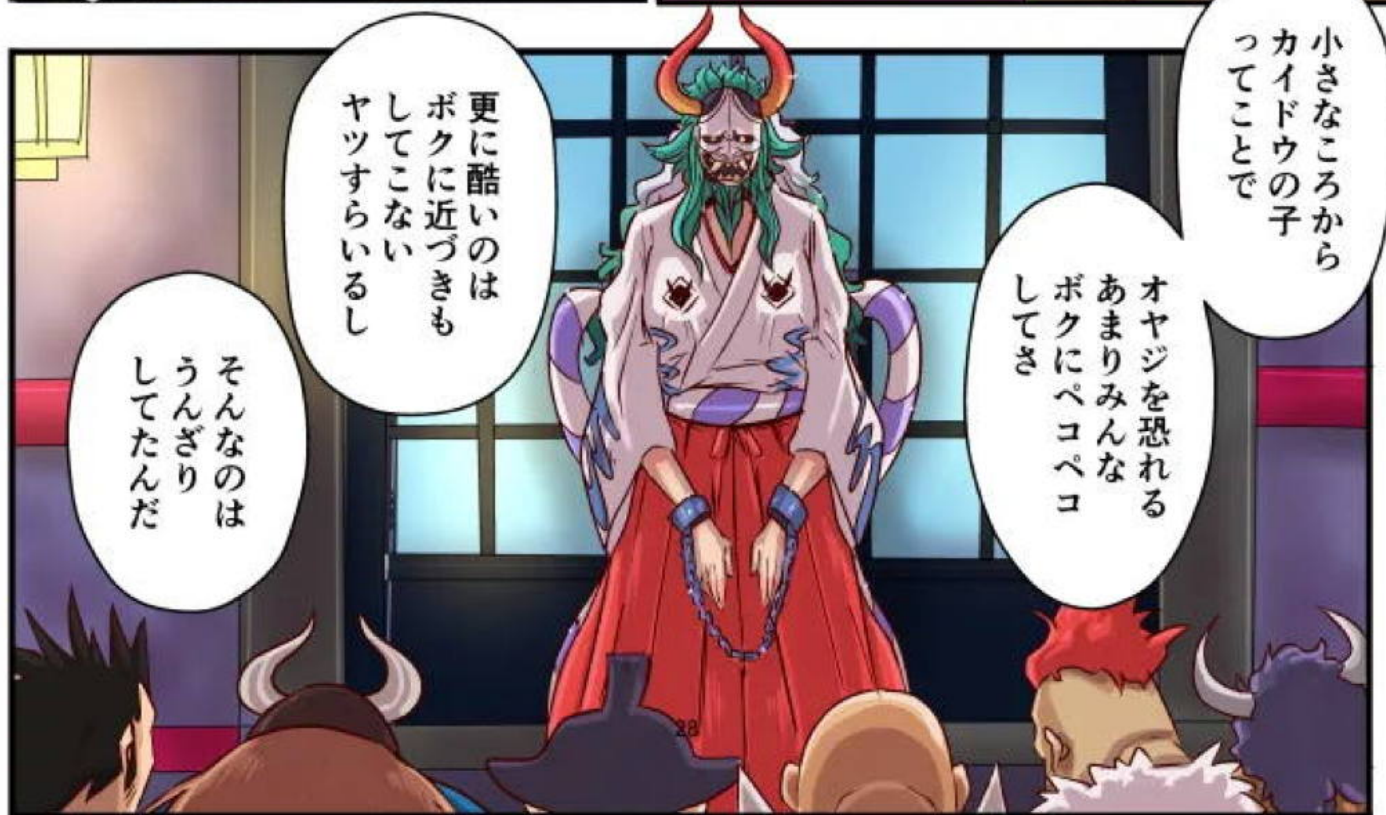
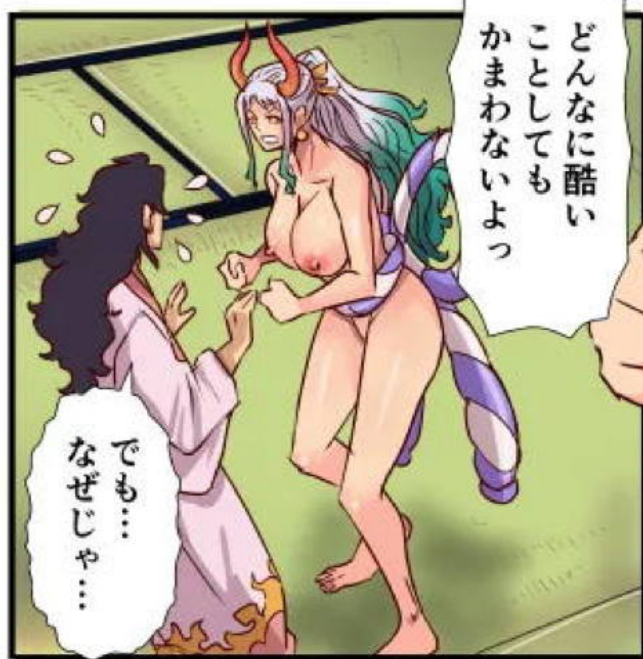
ありがとう
さすがボクが
見込んだ漢だ…

それじゃあ



最後の望みも
かなえてくれるよね

それでさ…
それでね





光月モモの助くん
キミにだけは
本当のボク、ヤマトを
見てほしい

ほらお尻
叩いたって
良いんだよ

いっ
っ



はは：
大丈夫だよ
ボクの頑丈さは
知っているだろ

そ。そういう事
ではなく…
お…おま…見えて
いるでござるぞ



ああ：
見たいのかい？
いいよ拡げて
見てよ

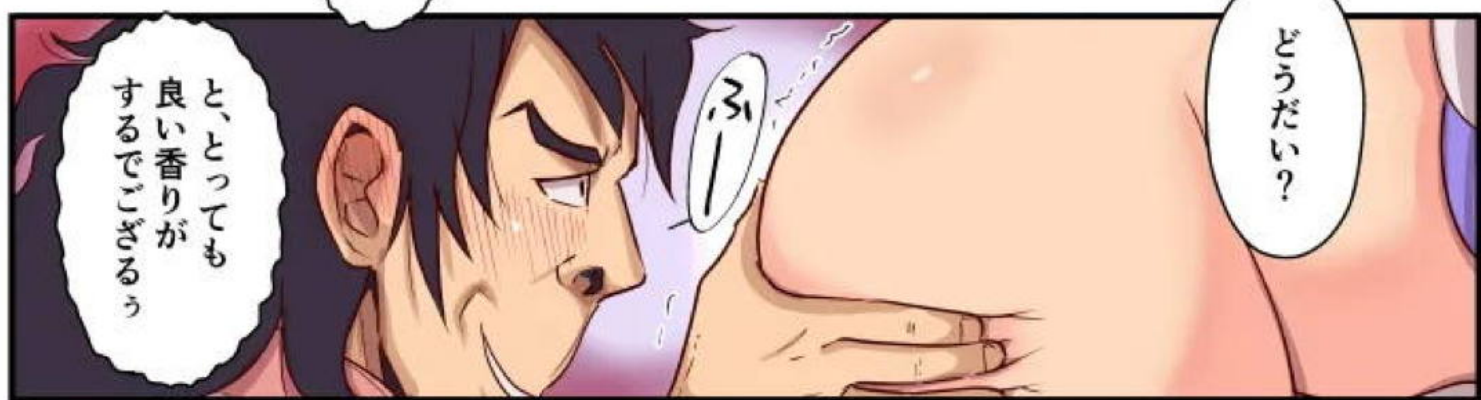
まことかっ

ふっ
ふっ

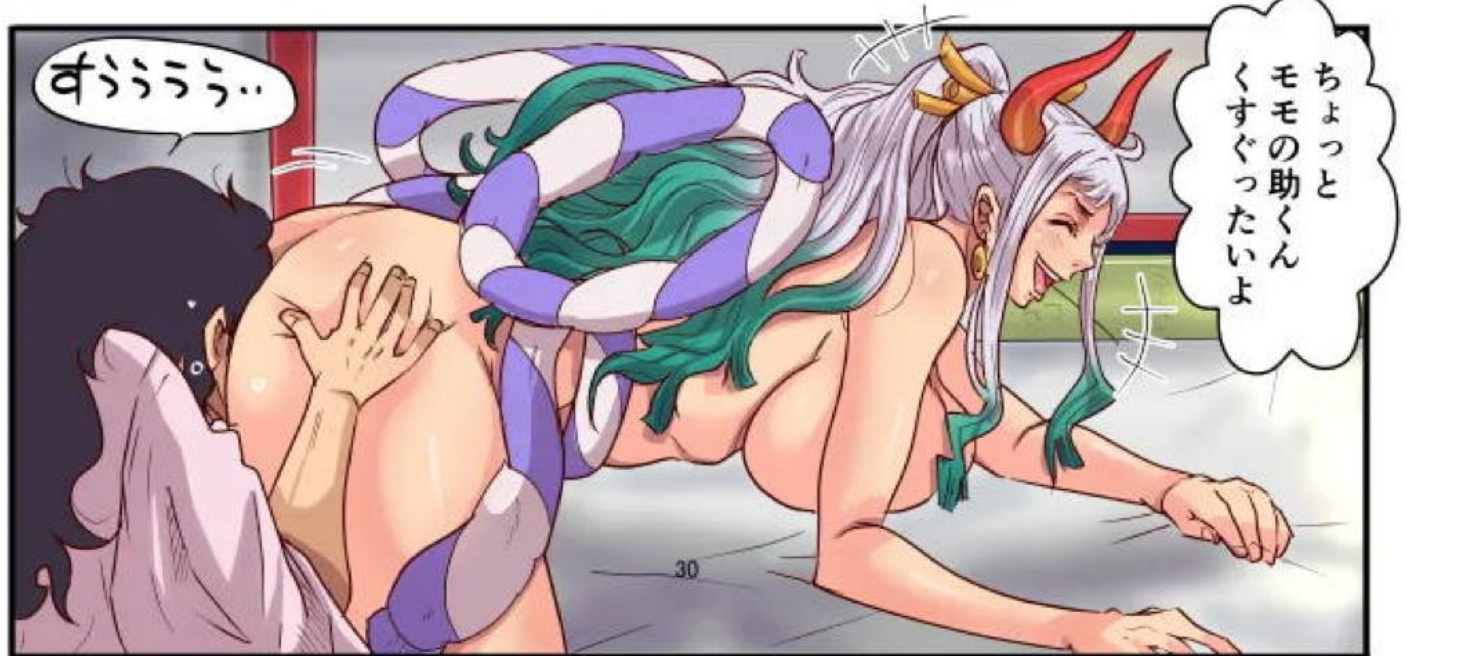


しからば...

どうだい？



と、とっても良い香りがするでござるう



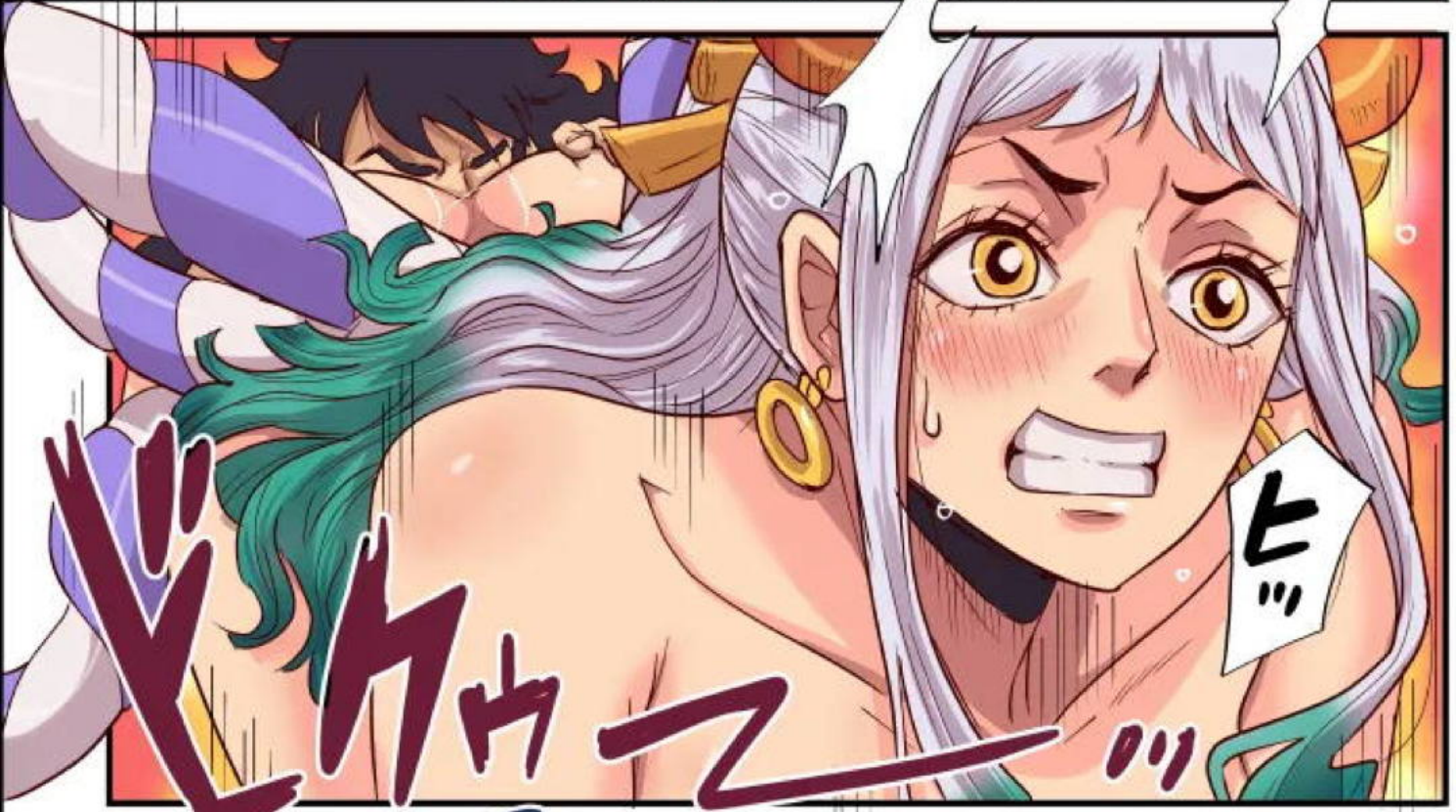
ちょっとモモの助くんくすぐったいよ

ずららら..



香しきは
果物の桃のような…

もしや味も…



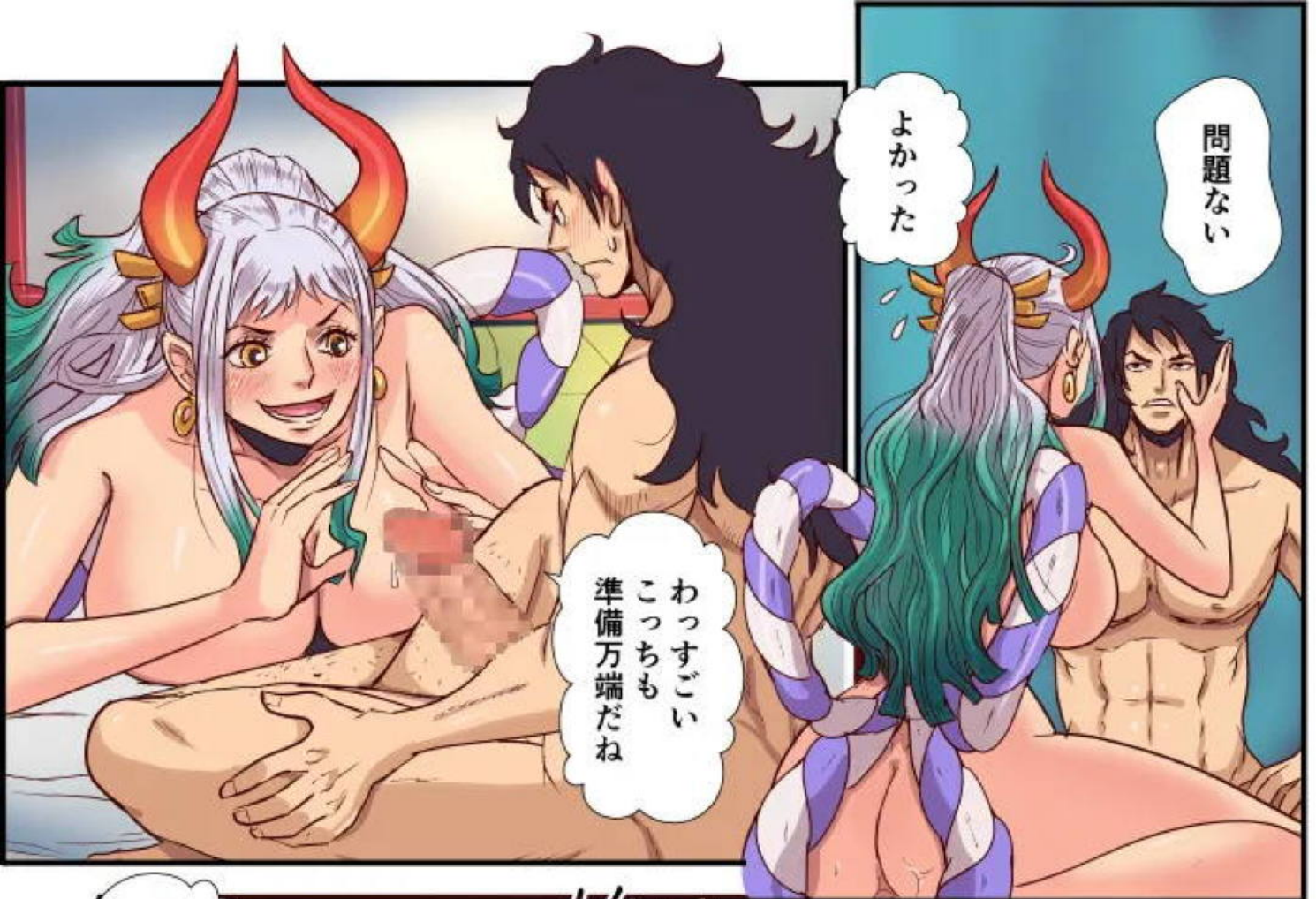
何？

えっ

びっ







問題ない

よかった

わっすごい
こっちも
準備万端だね



すごいよ
さすが光月の漢
おっきいなあ



うれしいなあ



これがボクを
女の子にして
くれるんだね



奥まで一気に
貫いてくれ…

やっとこの時が
来たんだね
うれしいよ
モモの助くん…

ドキ

ドキ

カ

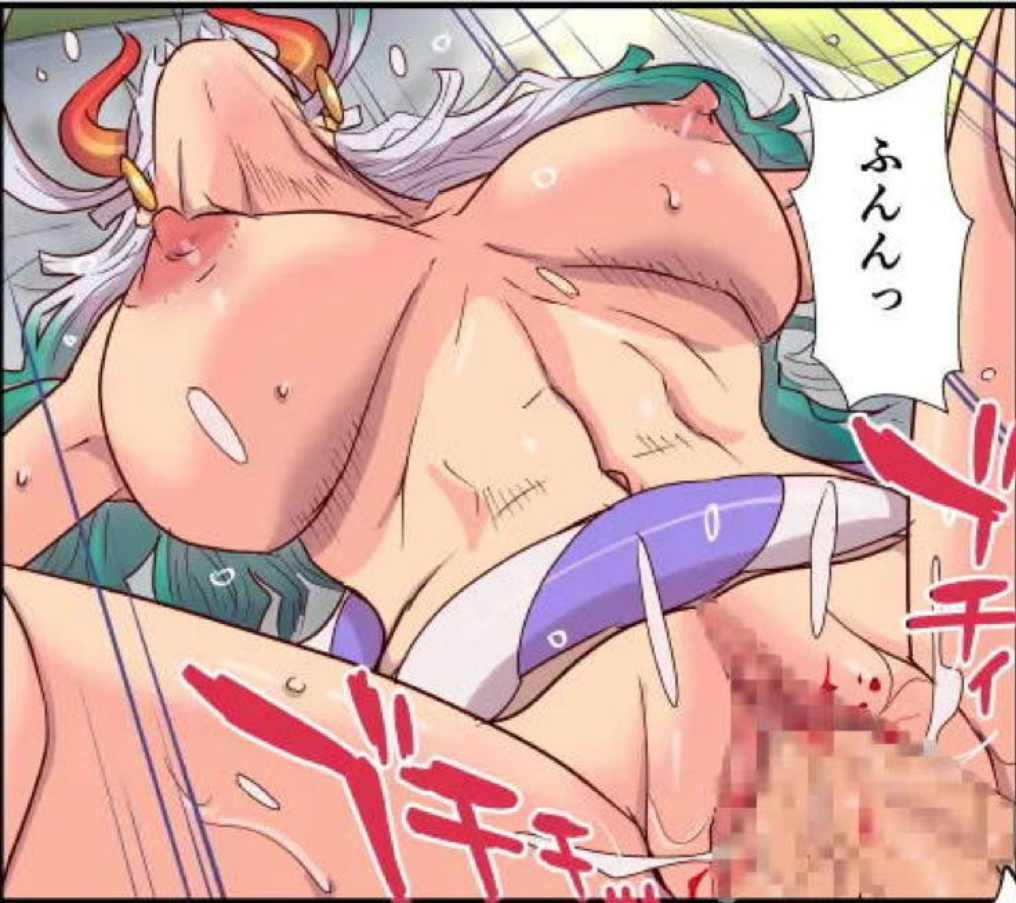
は

ムワ



そう
そこだよ…

ちゅる



ふんんっ

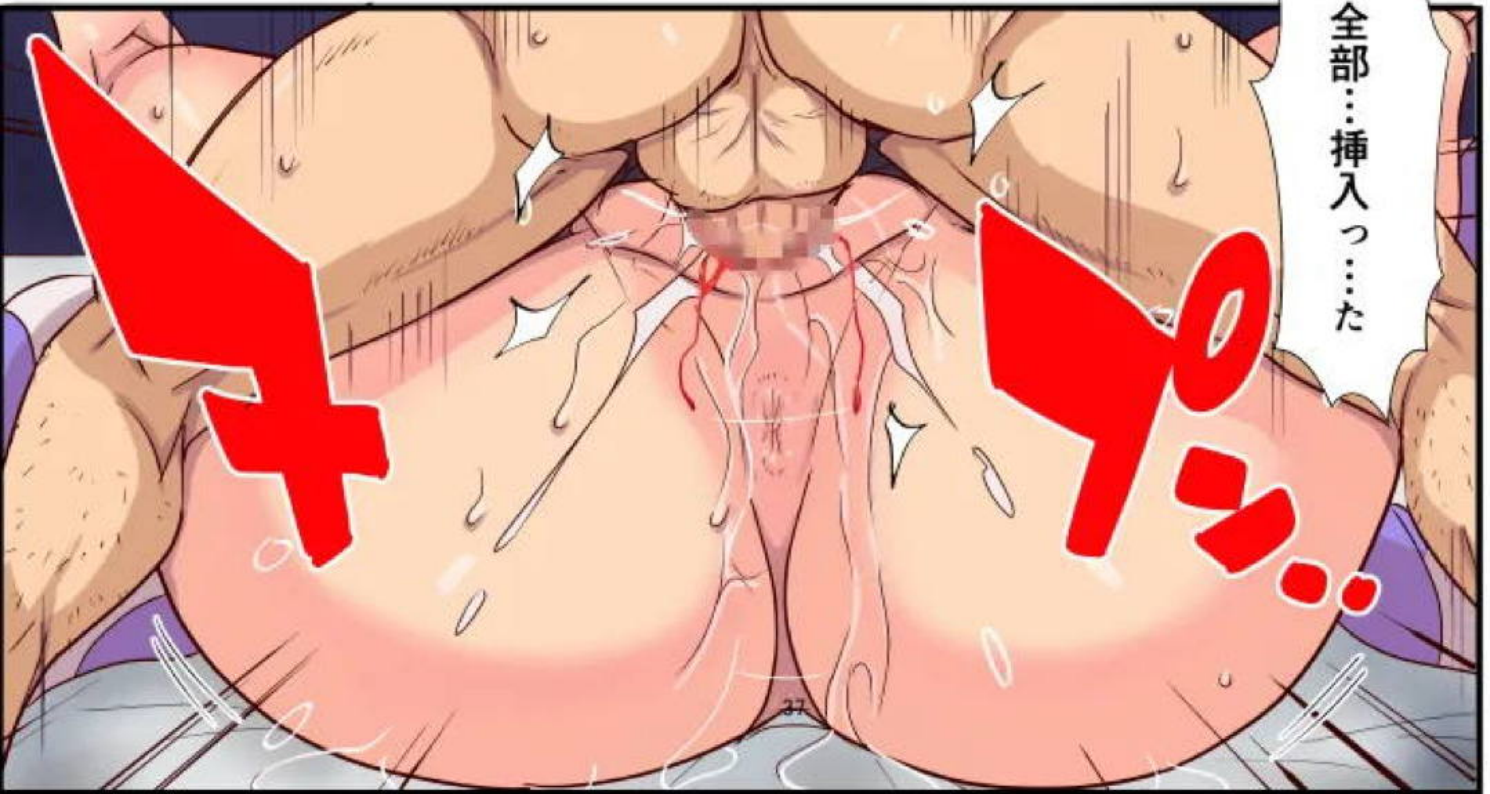


あ...あしこぶ
うんぬ



すごい
無理矢理押し
分けて広げ
られていく

痛みより
別の間隔が
流れ込んで
くるよ



全部...挿入っ...た



ヤマト？



気持ち良すぎる

拙者のチンポを
おまんこが
包み込んで
扱かれておる…



これが
おなごの膣内か

あ

あ



カイドウは
キミたちに
取り返しの
つかない事を
した…

その贖罪は
子供のボクが
果たすべきだ

違うんだ
これは嬉し涙



ス、スマぬ…
痛くしたか？



ギョッ、

心の葛藤は
すべてボクの
中に吐き出して

だったら



キミに殺されても
文句は言えない

恨みもあつたらう
でもキミは
ボクを仲間として
伴ってくれた





叩きつけてっ

はっ

はっ

いいよっ
突いてっ



あゝあゝ

あゝあゝ

あゝ

あゝあゝあゝ

あゝ



ズッ

ズッ

何かくるっ
スゴイ波が…っ



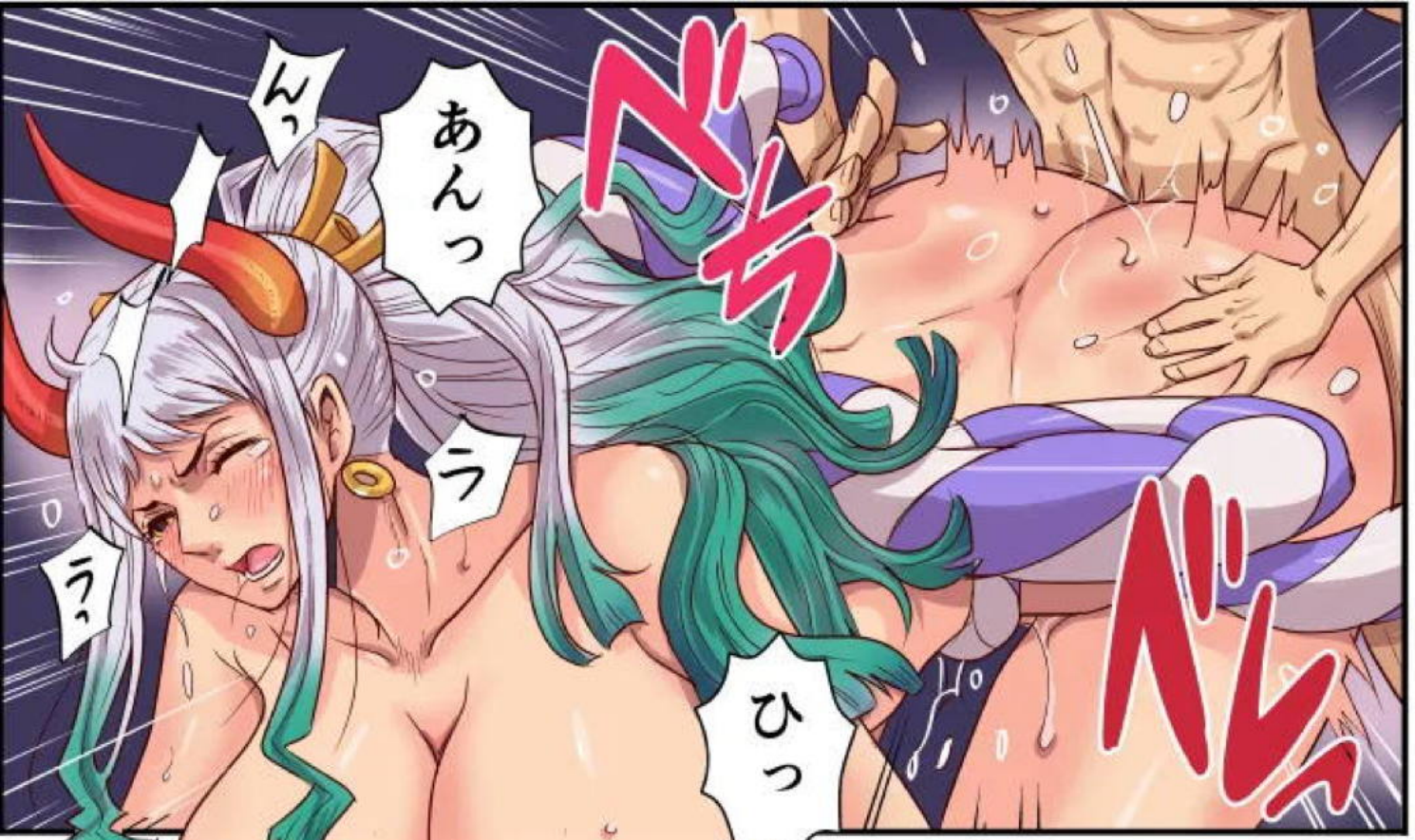


はうっ

ウ

パン

ク



いいぞ
モモの助くん
キミの怒りを
すべてボクに
ぶつけてくれ…

そのために
ボクはいるんだ
からね…

痛い

あは

んっ

あんっ

ラ

ひっ

ドク

ブル

キユッ

キユ

バチ

ドク

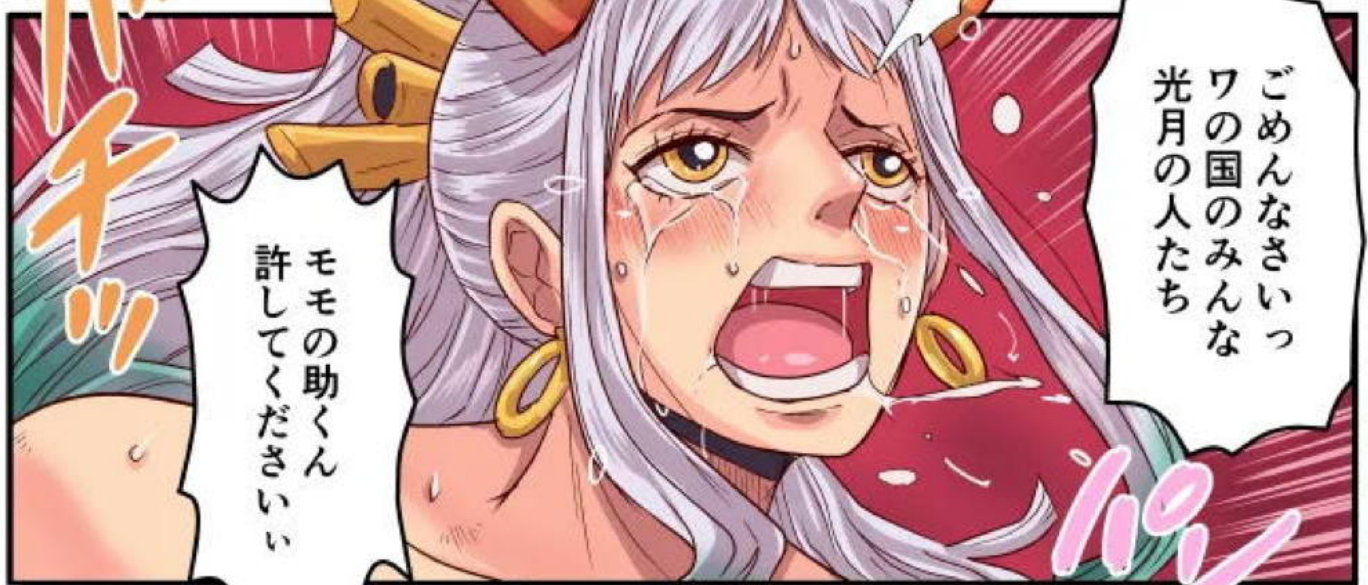


痛いよお

痛いっ

パァー
パァー
パァー

ビッ
ビッ
ビッ

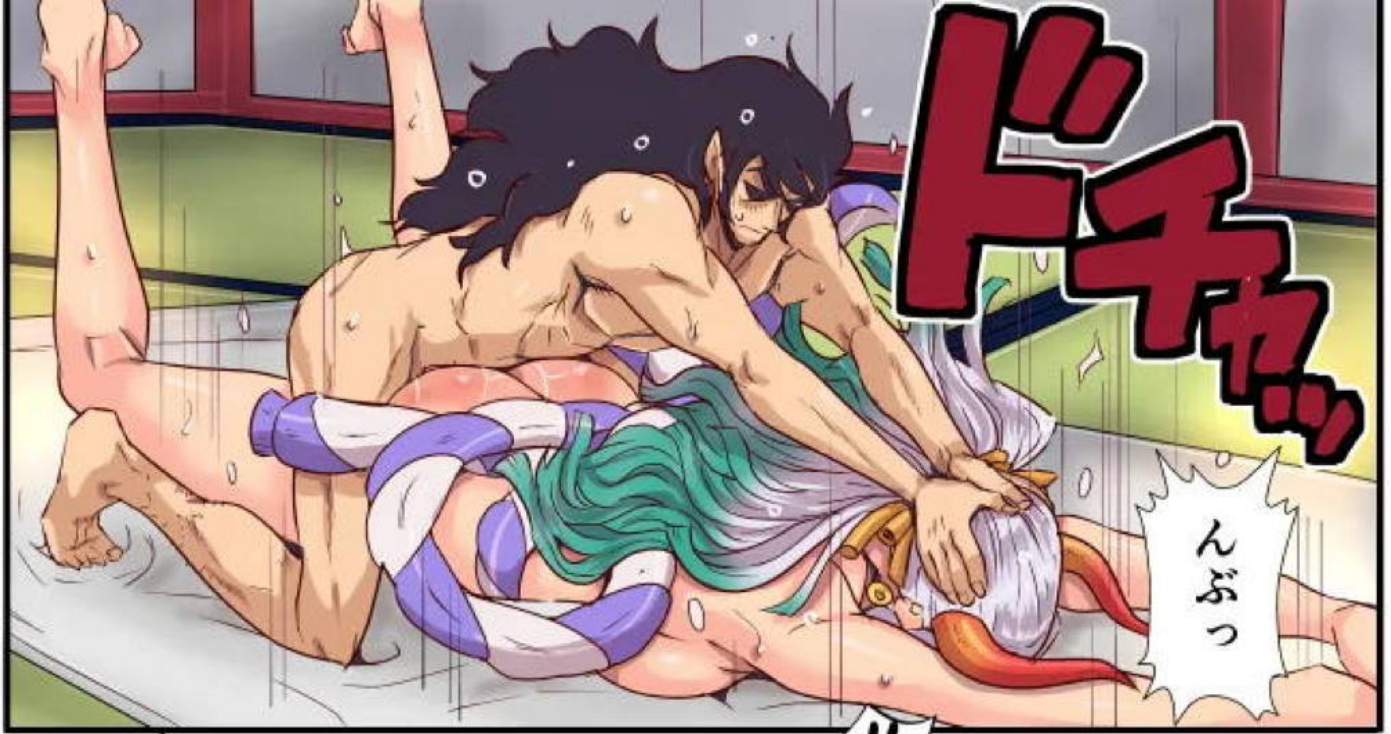


ごめんなさいっ
ワの国のみんな
光月の人たち

モモの助くん
許してください

チッ
チッ
チッ

ハッ
ハッ
ハッ

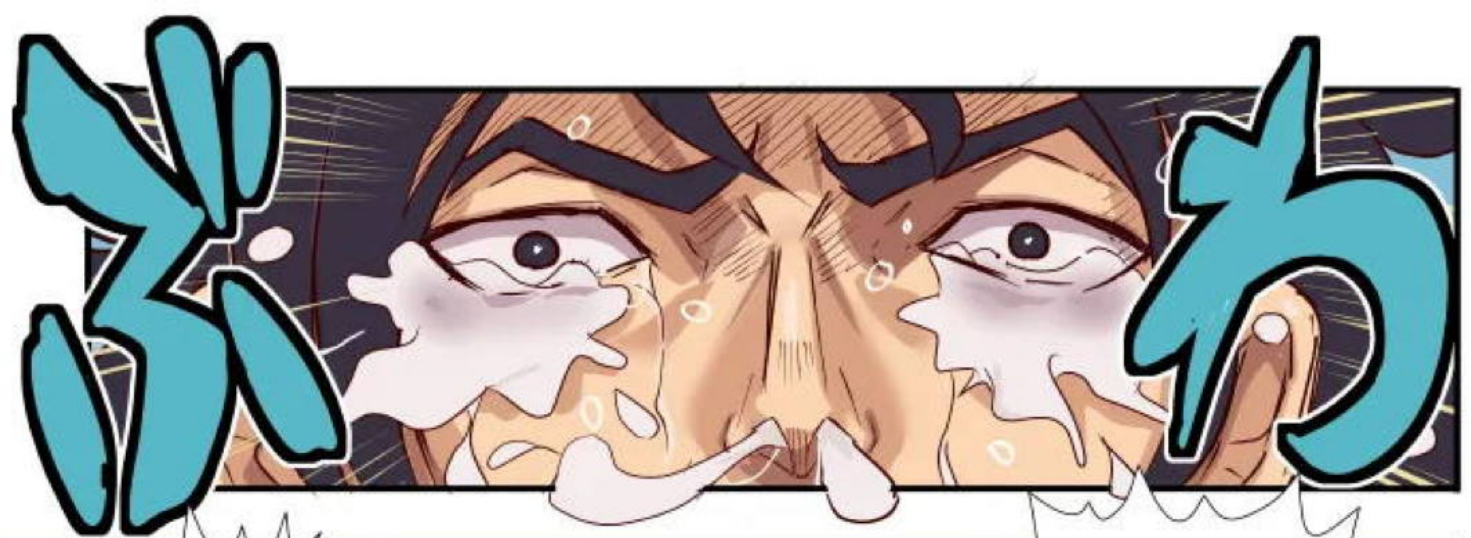




あつダメ
角弱いんだっ



ゴメンねっ
逆らわないよ
その怒り
受け止め
るからっ



拙者がお主に
怒りや恨みなど
あるわけない
であろうっ

むしろ
その逆じゃっ

えっ？





拙者にとって
お主は共に戦い
助け合った仲間で
ござるっ



憎いのは
カイドウで
お主ではないっ

だ、だいいち…



あ、愛して…おる



そ…それに
男の子は…



もちろん
おなごとして



好きな女の子には
意地悪をしたく
なるのでござる



カキカキカキカキ

ぬおおっ
すごい締めつけ
動かせないで
ござるっ



カキ



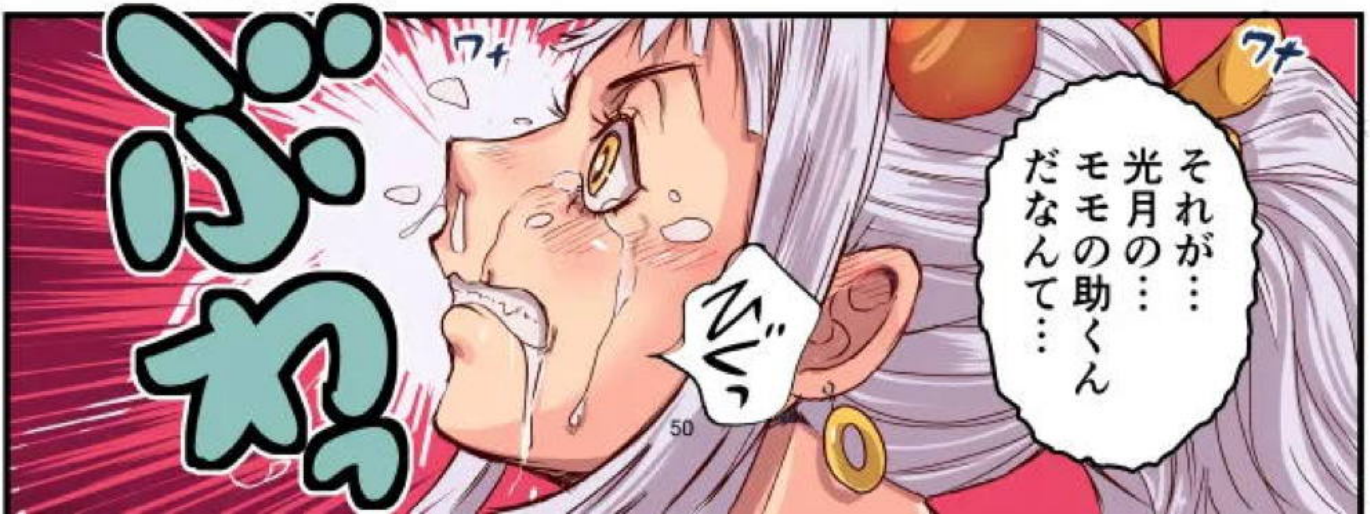
アハハハ

これでは
で、射精る…

うれしいよお
初めて誰かに
好きって
言われたっ

カキカキカキカキ

ヘッ
ヘッ



ぶわっ

それが…
光月の…
モモの助くん
だなんて…





拙者のチンポ
抜けない…



ヤ…ヤマト
力を…

抜いて…ほしい
でござるう…

あー



ボクにも
どうしていいか

あひこっ



お尻に指を…

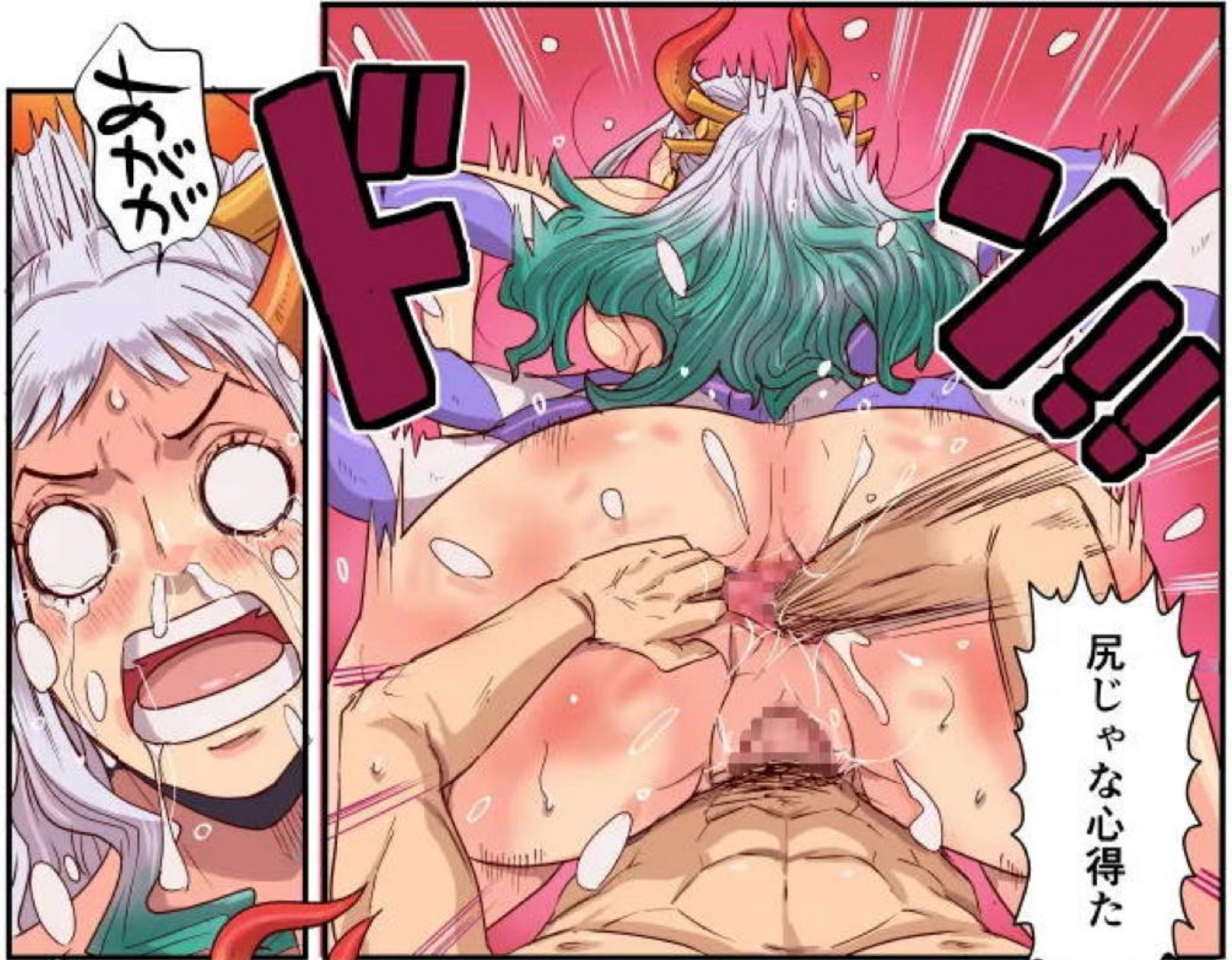


そうだった

別の刺激で
緩むと思うんだ

キリキリ

キリキリ





おっ
抜けそうじゃ

モリ

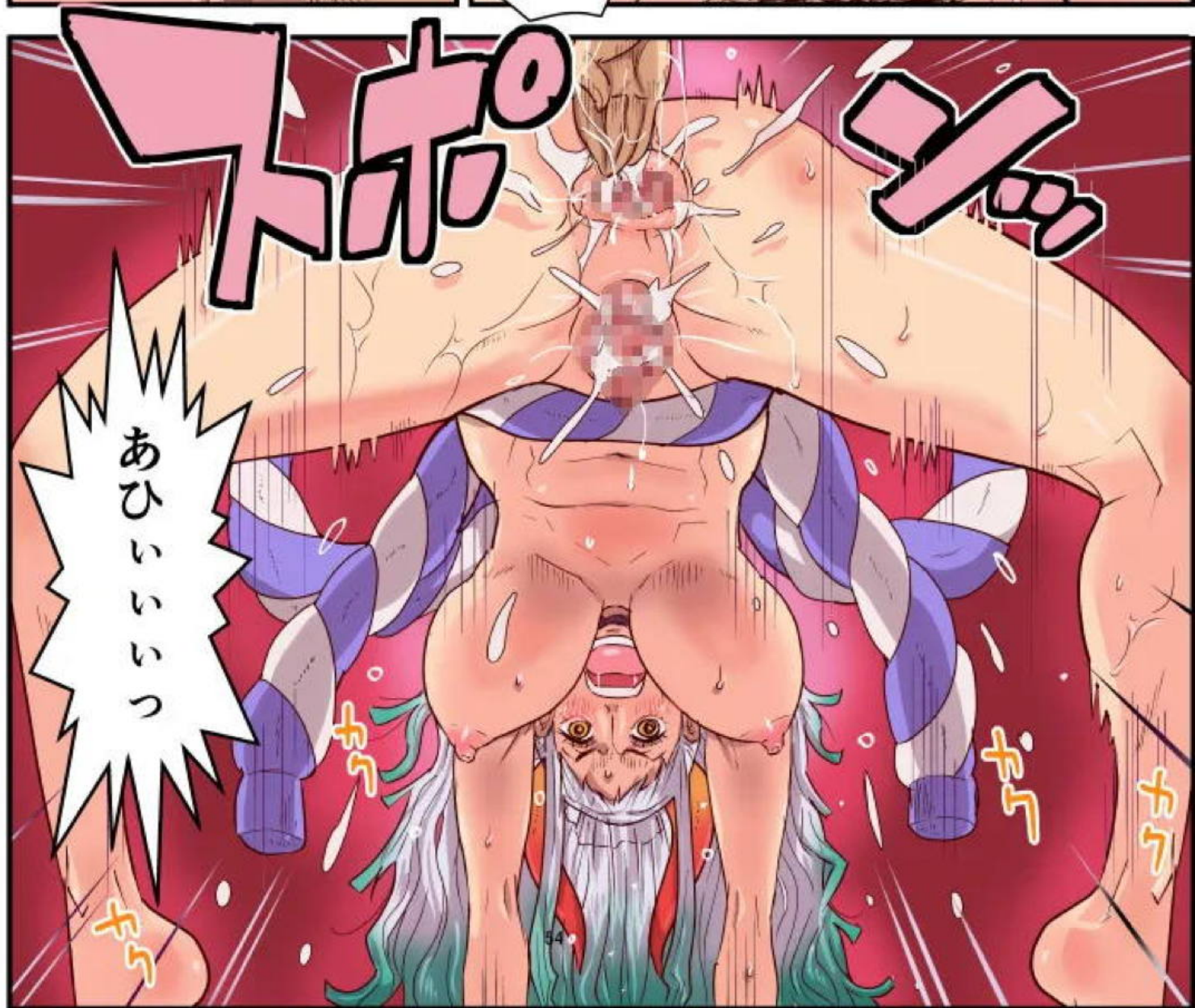
モリ



おおおん

ここが
引っかって

あと少し
我慢してくれ



ポッポ

ン

あひいっ
あひいっ
あひいっ

ナク

ナク

ナク

ナク



ヤマトー
安心してくれ

はー
はー
見てくれ
腕もチンコモ
両方抜けたで
ござるよ



…ヤマト?

す、すまぬ
夢中になって
やりすぎて
しまった…

何を言うんだい
すっごい
良かったよ
気を失う
かと思った



ヤマト



…



ビヤン!

エヘ...

だからさ...

そんな
キミにしか
頼めないんだ...



やっぱり
キミは
思った通り
ボクの望みを
叶えてくれる
漢だよ

ゴソ

ゴソ



やった
ありがとう

これは...
もてヒロシ
事がこの
メカニク

お主がそれを
望むなら
任されよ

ビビ!



もっとボクを
イジメて
くれるかい?

かあ♡





モモの助くん
キミは
どうだい？



ビキ

ガテ

ふふ…
チンポで
わかったよ



ガ
ラ

カ
ン



これから
未来永劫
キミにだけ
服従する…

そう考えると
胸の所が
ゾクゾクするよ

ジ
ギ
ン

カ
ン

カ
ン



いいかい
変な優しさは
ダメだよ

カ
ン

あくまで
モノ扱いして
ほしいんだ





モモの助くん…

はっ

はっ

はっ

チュッ

チュッ



んふ

んふ

ゴ

ゴ

ガッガッ



ゴッ

自分だけ
楽しんでないで
奥まで啜えるで
ござるよっ





これは
おじおきが
必要でござるなっ

ごめんよお...

ド
ド
ド

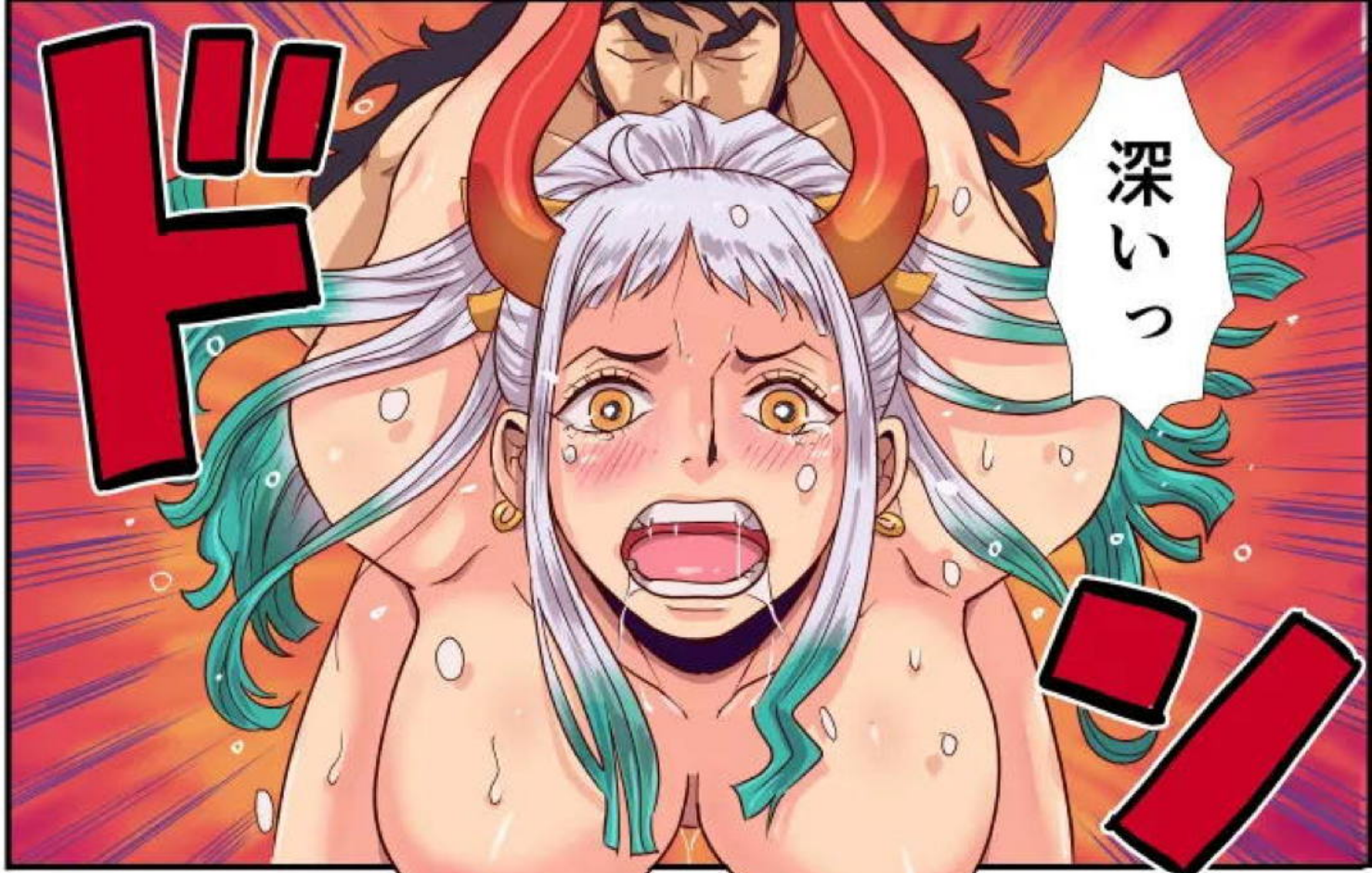
何をニヤついて
いるっ反省が
ないっ

いいね
調子出てきた
じゃないか
モモの助くん

ラッラッラッ

!!

ド
ド
ド



深いっ



またあの電撃が...





ズブ

なおも奥まで
分け入ってきてる

すごいっ
奥まで
届いてるっ

はっ

はっ

ギン



チカ

チカ

これが
モモの助くん
の本気なんだね

ギン

はっ



イハ
イハ

あッ

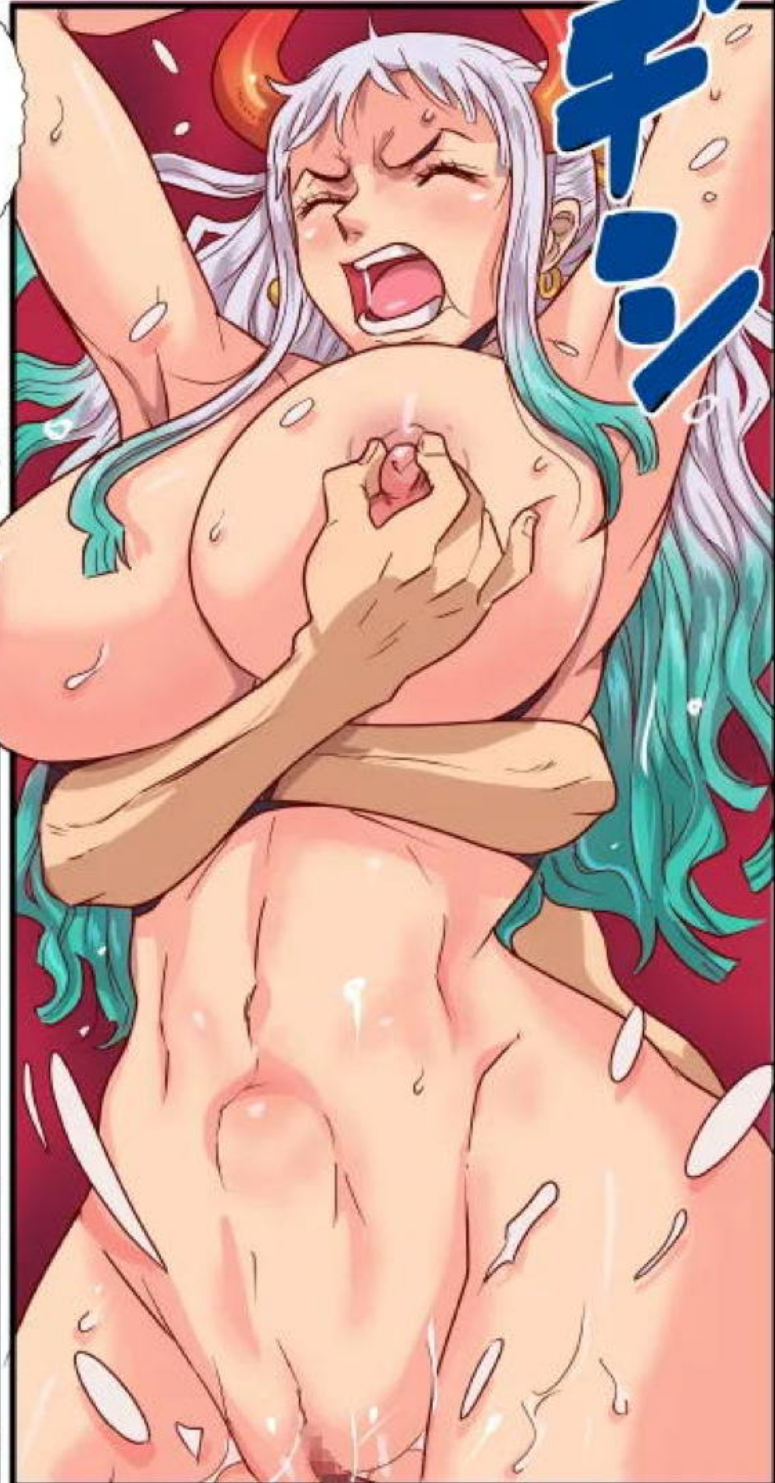
ギン



こんなの…



こんな
すごいの…



ギ
ン



ガ
ン

ゴ
ン



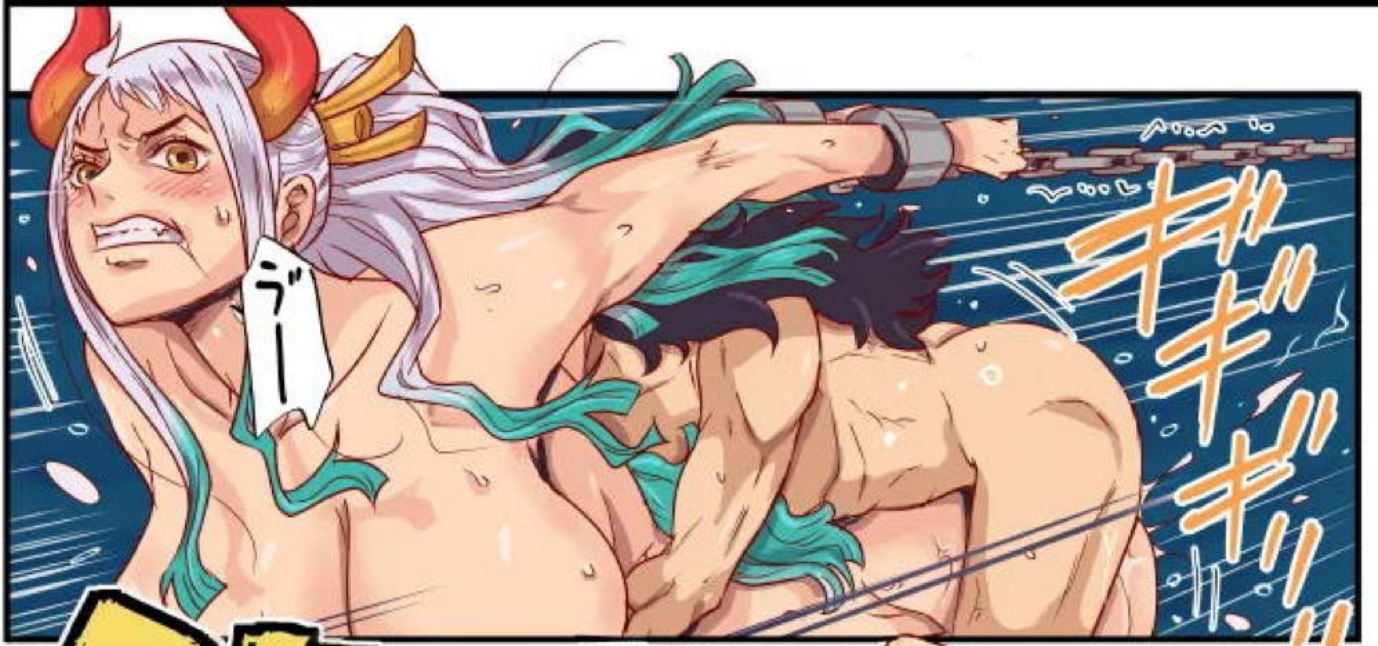
耐えられるわけ
ないよっ



んぎいらいらっ



あ
あがつ
がつ



モモの助くん

モモの助くん

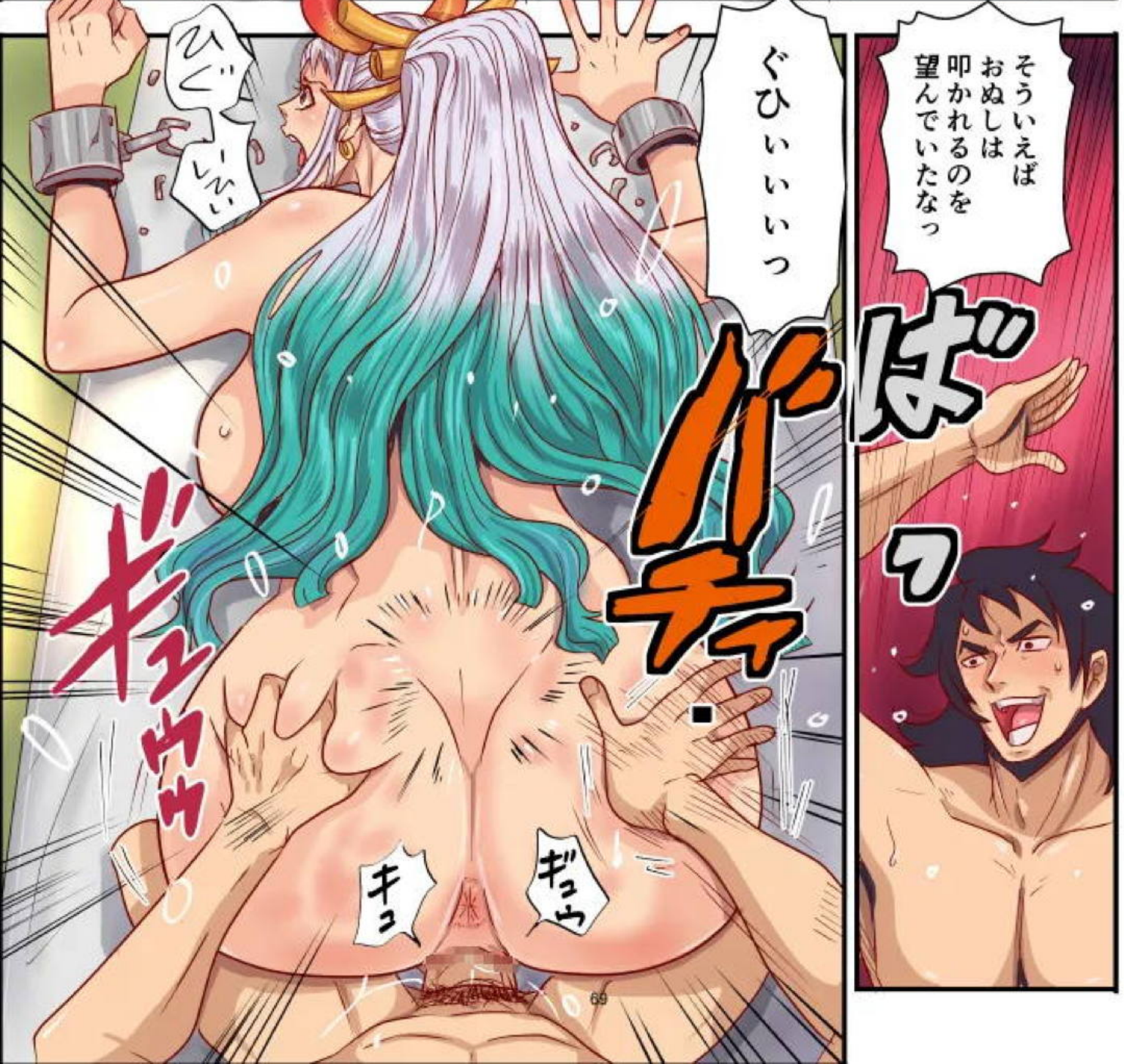
モモの助くん



ははは
どうだヤマト

こういうのが
欲しかったので
あろうか？

おは
おは



そういえば
おぬしは
叩かれるのを
望んでいたなっ

ぐひい
いっ

ば

ッ



ギョ
ギョ
ギョ

バ

ギョ

ギョ



意識飛ぶかと思っただけ...

すごーよお



はあ

はあ

はあ



あ...ああとっても...ね

ど...どうじゃ満足...できたか

はあ

はあ



そのための準備は...

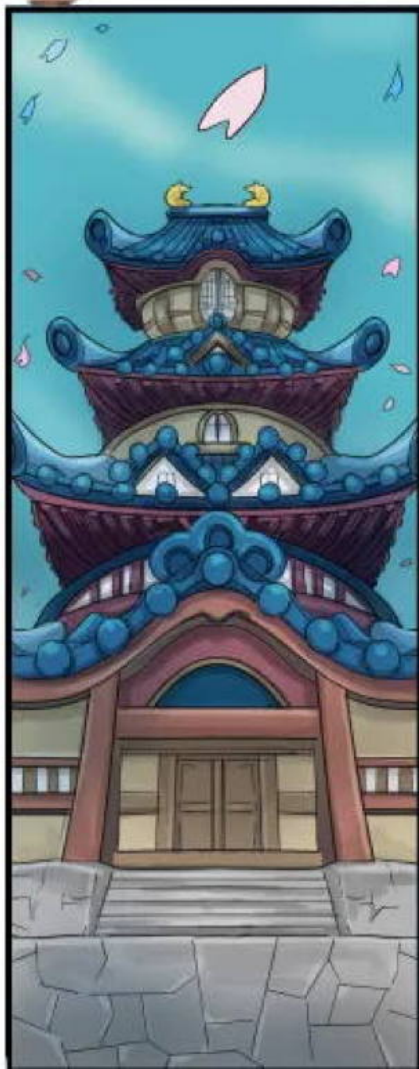


キミはどうだい？

キミが満たされるまで付き合うからね



じゃあああん



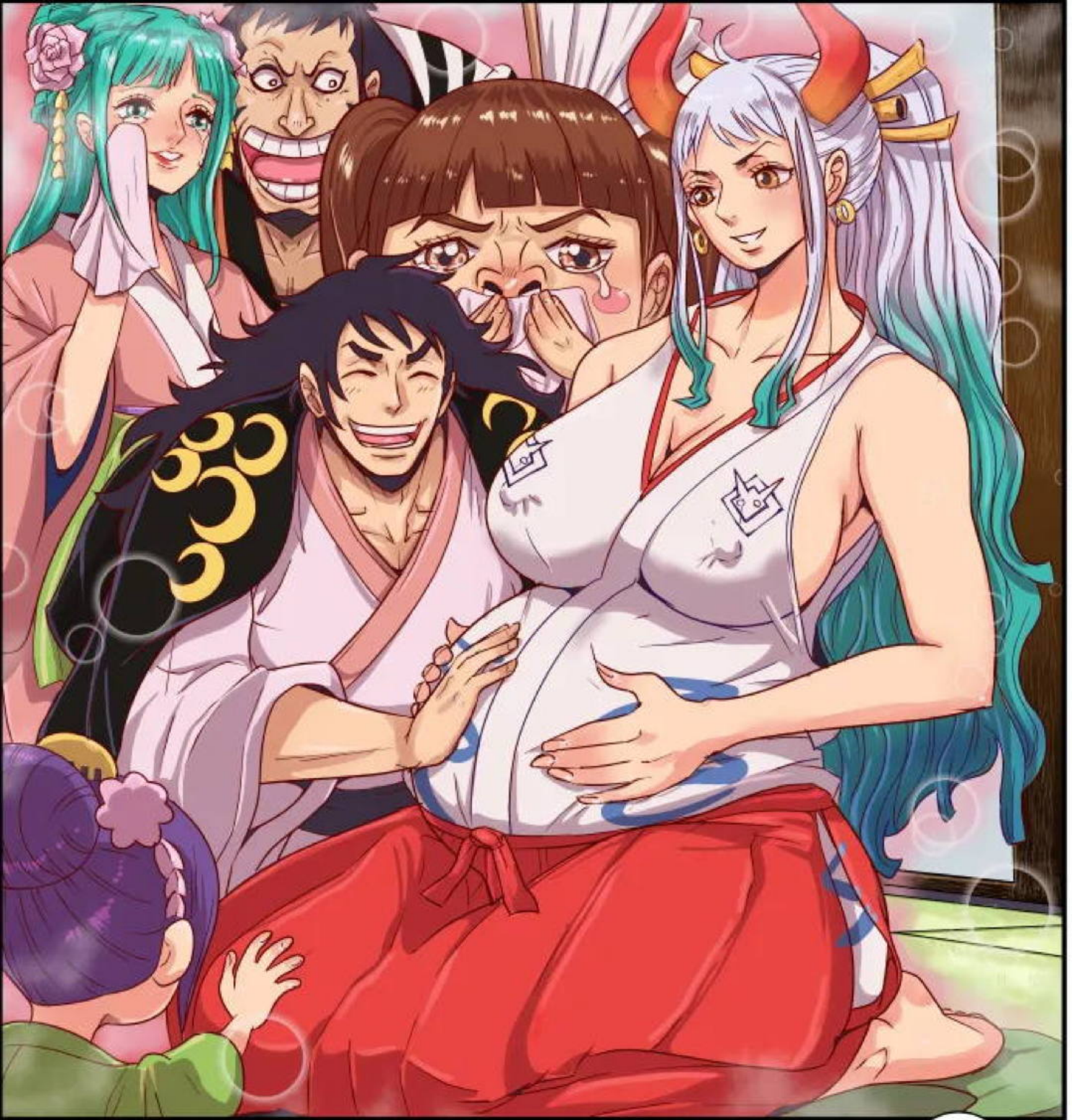
ふふふ

ははは



平気さ
ボクは壊れたり
しないよ

ヤマトおぬし
壊れてしまう
かもしれぬぞ



その子
男の子だって？

あ、兄上が
父親に...

ラララ...

これで
光月家も
安泰で
ありますな

あ、
動いた♡

描きたかったのは全肯定ヤマト。

ご講読ありがとうございます。
前々から作りたかったヤマト本です、

ヤマトが一味に加わらなかった理由を自分なりに
解釈してこの話を考えました。
光月おでんに心酔しきっていたヤマトがその一人息子の
モモの助という存在と成長を間近に見続けたが故の…
って感じです。

そんなヤマトですからもうベタ惚れなわけで、全肯定なのです。
恐らく命令されれば尻穴だってペロペロしちゃうでしょう。
そういうシーンも描きたかったのですが際限なく増えるページで
いつまでも完成しないのもダメだと思い今回はこの辺に…です。
反響があればそういったやり残した部分を描きたいとも思っ
ております。

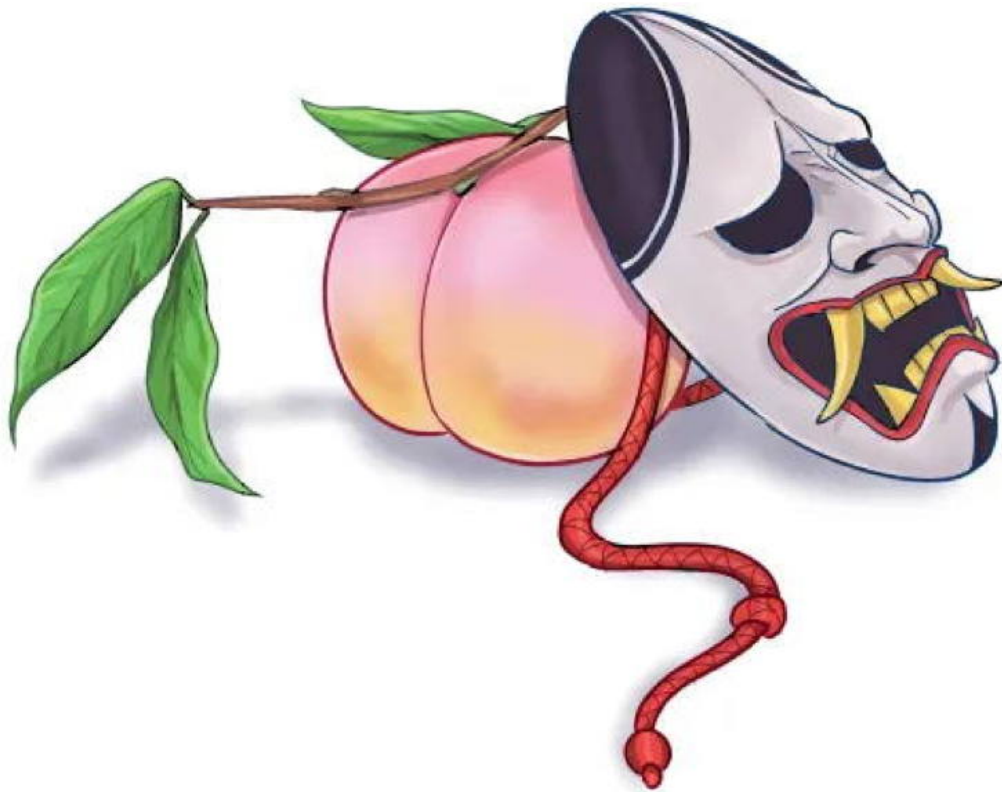
自分にだけ女の子を見せてくれる男勝りのコって最高だと思います。

では、次の作品でお会いしましょう。ありがとうございました。

格闘3回

X(旧Twitter) :@Ocock_san
Pixv :id=3372976

無断転載
18歳未満の方の閲覧は
ご遠慮ください



王国産

